



SOYOKAZE

そよ風

Vol.40

2011年11月25日

【目次】

- P1 *トピックス「女性と健康」
- P2 * 講座報告「イキイキママのこれからライフ」
* 厚労省リーフレット紹介
- P3 * 講座報告「家族の現在を考える」
- P4 * 報告「市民会議意見書の報告」
* 報告「女性議員懇談会」
- P5 * 報告 ウィメンズプラザパネル展示 / バス研修
* これから行う講座
「女性の排泄トラブルを考える」
「家族にひそむDVの芽」
市の男女共同参画「今までの取り組みとこれから」
アサーティブ・トレーニング「そして私の生き方」
「女性のための再就職セミナー」
「DVパネル展示」
- P6 * 図書紹介・貸出案内
* 女性の悩みごと相談
* センター利用案内



女性と健康

トピックス

医療の世界は科学的なものなので男女不平等はないと思われませんが、実は1990年代までは「男性の医者による男性患者を前提とした男性医療」がベースとなっていました。女医という言葉があっても男医という言葉がないように、医者とは男性をさすものでした。

また医療の根拠となる臨床データも男性からとったものが中心でした。妊娠・出産機能を持つ女性を対象とした医療は、長い間行われてきませんでした。その反省をもとに近年「女性外来」という診療科ができてきました。

女性外来は、男女の身体的な違いを踏まえるだけでなく、社会の中での「女性役割」がもたらす様々な問題を考慮して診察にあたります。病気や不調の原因に女性特有の心理的要因があることも少なくありません。

そのため十分に時間をかけて丁寧に話を聞くこと、一つの科に限定せず、全人的な医療を行うことが女性外来の特徴です。多くの場合女性医師が担当して

おり、女性の置かれている状況や背景に理解があることで、DV(ドメスティック・バイオレンス)を原因とする体調不良等にも適切に対応することができます。

ある保険会社の調査では、20代の主婦の5割以上が「いつも体がだるい」「イライラすることが多い」と感じていると報告されています。具合が悪い時は病院に行くものと思っけていても、特に家庭の主婦は家族の健康には気を遣うのに自分のことは後回し、病院に行くのも一日延ばしにしていることが多いようです。

今は普通に生活できているから大丈夫と思っけていても、もし見えないところに異常があっけて突然倒れたりしたら大変です。進んで定期健診を受け、生き生きと健康で暮らすことは、人としての権利です。女性外来も選択肢に入れ、自分の健康は自分で守っていきましょう。

★11月末に女性限定で尿失禁をテーマにした健康講座を開催します。ぜひご参加ください。(詳しくは5ページ記事参照)

【イキイキママのこれからライフ】



講義と進行：下村美恵子

(むさしのヒューマン・ネットワークセンター長)

日程：9月20日～10月11日 毎週火曜日（全4回）10:00～12:00

場所：市民会館 第一学習室

第1回	9/20	友だちと私
第2回	9/27	夫と私
第3回	10/4	仕事と私
第4回	10/11	これからの私



【リラックスして、これから4回学んでいきましょう…ちょっと緊張の第1回】

育児に家事にと何かと忙しい母親も、ふと「私はこのままでいいのかな」と思うことがあります。その思いを大切に、ひとまず子どもから離れて、自分自身と社会をみつめ直そうと、今年度も標記の講座を実施しました。参加者には、母親役割はいつか終わるもの、子どもが小さいうちにこそ「私のこれから」を考えることが大切だとのメッセージが伝わったようで、みんなの顔がイキイキしていきました。

子どものことではなく、自分のことを自分の言葉で話すのは、しばらくなかった経験だけに「学ぶ楽しさを新鮮に感じた」「意見を言うのにドキドキしたけれど楽しかった」「もっと回数がほしい」などの感想とともに、「私の悩みは私一人だけのものではない」と知り、皆ホッとしたと口々に言っていました。

自分を見直すことは、ときには苦しくなってきたり、いろいろな葛藤が生じたりしてきますが、それらの気持ちも正直に出し合いました。「それは誠実に学んだ証拠」というわけで、「いまがとても大切な時期である」ということを実感したようです。参加者は全員で16人、毎回一人も休まず出席しました。

🌱 元気な17名もいきいきと！ 🌱

初めはお母さんから離れられず、託児室の前で大泣きしていた子どもたちも、すっかり慣れて、毎回託児時間内で手作りした工作品を嬉しそうに持ち帰るなど、微笑ましい様子が見られました。子どもたち17人もお母さん同様、しっかり学びました。

(運営協議会委員 大島登志子)

イキイキママのこれからライフを 考えるヒント



- ！自分の健康と幸せは自分で守る。
- ！将来も大事だが、今も大事。今の積み重ねが将来につながる。
- ！「母親だから」「女だから」「年だから」などの理由で、自分の持っている可能性を狭めない。
- ！まだ根強い三歳児神話・母性神話、これには根拠がないことを知る。
- ！ワーク・ライフ・バランスは一生の問題。夫も巻き込んで再構築を試みる。
- ！個人の問題は社会の問題でもあることに着目する。

有期契約労働者の 育児休業取得推進にむけて



1992年に施行された「育児・介護休業法」が2005年に改正され、有期契約労働者も取得可能になりました。しかし実際には一定の条件（一年以上の雇用実績など）を満たす必要があり、取得はなかなか進んでいません。また、雇用する側もされる側も「非正規なら育休は無理」との思い込みがあるのも、その要因とされています。

今回、厚労省から発行されたこのリーフレットは、そんな現状を改善させるための指針となるかもしれません。企業向けにはありますが、これから出産を考える女性にも十分役立ちそうです。

リーフレットは厚労省育児・介護休業推進室(☎03-5253-1111)内線7863で、無料で配布されています(厚労省のホームページ上でも公開しています)。

…厚労省発行リーフレット(2011)

【家族の現在を考える】

日程：10月8日～10月29日 毎週土曜日全4回

13:30～15:30

場所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター 会議室

これから家族はどう変化しどう機能していくのでしょうか。当センターは家族に関する今日的課題に焦点をあて、多岐に渡る問題の中から考えるヒントを探ってみました。

《第1回》10/8

日本型近代家族の成立とゆくえ
—どこから来てどこへ行く—
武蔵大学教授 千田有紀さん

家族とひとことに言ってもさまざまです。また時代によって変化しています。この講座では、家族の形態の歴史的推移とこれから家族はどう姿を変えていくのかなどいろいろ考えました。日本型近代家族と言われているものは歴史的には比較的新しいものとのことでした。



地域社会のつながりが希薄になり、核家族が増えている現在、「子育て」は「孤育て」となりがちで、孤独を深める母親が多いのも現状です。森木さんは地域再生の可能性をめざし、ひと味違った子育て支援を実践的に取り組んでいるとのこと、そのさり気なさが魅力で訴える力に勇気づけられました。

《第2回》10/15

子育てに悩む母親たち
—地域社会とく孤>育て—
子育てひろば・相談室
東京ベータ代表 森木美佐子さん



《第3回》10/22

母・娘関係がアブナイ
—依存と支配の後遺症—
産業カウンセラー/ジャーナリスト
大美賀直子さん

子ども時代、母の期待に応えようとがんばる娘も、やがて成長と共に、がんばっただけでは成果や承認が得られないことも知っていきます。良妻賢母や逆に母親の不全感が娘を苦境に追い込みやすくなることなど、母と娘の支配と依存の関係を考させられるものとなりました。



介護する、されるは多くの方がいつかは経験することです。また、必ずしもそれは「嫁」・妻・娘が担うものとは限りません。男性も介護する時代になっています。そうしたとき、男性介護者が孤立しないよう気をつけることや、介護の現状などを施設責任者の阿部さんからうかがいました。

《第4回》10/29

夫も息子も担い手に — 介護・新時代
桜堤ケアハウス施設長 阿部敏哉さん(右)
ケアプランとなり組代表 松村勝人さん(左)



中年男性ヘルパーとして、介護の現場で働く松村さんから、男性も介護をがんばっていますよと教えられました。親の看取りをめぐる、誰が何の役割分担をするか、またある程度の経済力も必要だとの話をうかがいました。



受講者の感想

【第1回】

家族は血のつながりだけが条件でない…。日本にはかつて事実そうした家族が存在したというのが発見でした。歴史を知る大切さ、面白さを知りました。

【第2回】

森木さんの話が聞きたかったので、本当に良かったです。福祉というと高齢者や障がい者が頭に浮かびますが、子どもを育てる環境も大事だと思いました。

【第3回】

母と娘…近い関係だけに自分と母親、私と娘の関係に引きつけて考えられました。改めて子どもと私の人格は違うと認識しました。

【第4回】

この10年間で家族機能の低下など、いろいろ変化してきたことなど、阿部さんの現場を良く知る立場からの専門的なお話や、ご自身の親の介護が真最中であるとの話を聞き、感銘しました。

【第4回】

介護はまだ身近に感じられないことでしたが、松村さんが男性ヘルパーとしていろいろな家庭にうかがったときのお話には考えさせられました。



『武蔵野市の男女共同参画計画はどこまで進んだか？ - 市民会議意見書の報告 -』

7月23日(土) 13:30 ~ 15:30
場所：吉祥寺南町コミュニティーセンター

当初3月に予定されていた報告会ですが、東日本大震災のため4ヵ月後に開催しました。昨年11月、市長に提出された「武蔵野市男女共同参画推進市民会議(第2期)意見書」は、市民が参加して作った計画の進捗状況を市民がチェックしたものです。この成果をなるべく多くの市民に共有してほしいという思いから、男女共同参画計画推進市民会議委員長(第1期及び第2期)の高田素子さんに解説していただきました。武蔵野市の男女共同参画の歴史をよく知っている方々も含め18人が集まり、講演後は活発な議論がわき上がりました。

男女共同参画推進市民会議の流れの中で、市民会議の常設化を計画に書き込まなかったばかりに、5年間の空白があったなど、高田さんは何度もじくじたる思いを味わいながら改善を積み上げてこれ、第二次計画からようやく実効性を確保する手立ては整ってきました。男女共同参画条例制定推進への意志を問う鋭い質問もフロアから出され、「市民の意識調査は市民会議が始まってから実施しても遅い」など、計画改訂に必要なタイミングについても知る事ができました。このような機会を再度設けてほしいとの希望も多く、センターでの勉強会の講師に初期の市民会議委員長、杉森長子さんをお招きすることが決まりました。(※詳しくは5ページ記事参照)

(運営協議会委員 三上かおり)

ご活躍に期待します！ — 女性議員懇談会

8月25日(木) 15:30 ~ 17:00
場所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター 会議室

4月の統一地方選挙で、武蔵野市議会議員に立候補した9名の女性が、全員当選を果たしました。地方議会における女性議員割合12.6% (平成22年内閣府調査) を大きく上回り、最も高い特別区の24.6% (同) をも超える快挙となりました。

そこで女性議員と協議会運営委員との懇談会を開き、和やかな雰囲気の中にも熱のこもった意見交換を行いました。(議員7名、運営協議会委員10名出席)

主な話題は……

- ①市職員の女性管理職の数値目標は8%となっているが、現在は4%である。これについてはさらなる努力を望みたい。男女の役割分担意識などの影響について議員がアンケートを実施したが、数年後は数値割合の上昇が期待できるのではないかと。民間企業の女性管理職も現状ではまだ少ないが、都心部では変化が見えてきたとも言われている。
- ②市のDV相談は年に約300件ある。男女共同参画推進の目的館として、センターに相談室があることが大事である。
- ③現在、全講座は託児付きで実施しているが、希望に応えられず講座の参加希望者を断るケースがあるので、今後は託児室を充実させたい。
- ④センターは市民の学習や交流の場として大勢に利用していただきたい。

管理運営を受託している協議会は、そのための努力を惜しまずやっていきたいです。市民の男女共同参画への関心を高めていく拠点施設なので、これに市民が主体的に関わっていくことにご理解いただき、超党派でのご協力とご支援をお願いしたいと思います。議員の皆さんの今後のご活躍を心から期待しています。

(運営協議会会長 中川瑛子)



【熱心に意見交換！力を合わせましょうと】

東京ウィメンズプラザフォーラム

市と共催で
実施しました

男女共同参画推進団体交流会

10/28(金)・29(土)

11/10(木)



今年も東京ウィメンズプラザフォーラムの指定ブースにパネルを出展しました。今年度は、センターの活動を手書きやイラストを多用して、各講座のちらしや『まなこ』『そよ風』などの情報誌その他の資料をまとめたものを展示しました。

「受け手である市民の気持ちを手書きで表現しているのが素晴らしい」との評価もいただきました。

これから一年間、ウィメンズプラザに展示されますのでぜひご覧ください。

今年、11月24日の「武蔵野平和の日」制定にちなみ、神奈川県横浜市にある「あーすぷらざ」（県立地球市民かながわぷらざ）を見学しました。ここは国際理解や平和、地球規模の課題について学べる総合学習施設です。午後には、特別展「芥川龍之介と久米正雄・われら作家を目指したり」を開催中の「鎌倉文学館」を見学しました。車中では各参加団体の紹介や質問の時間もあり、交流を深めることができ、有意義な一日を過ごしました。



「あーすぷらざ」



「鎌倉文学館」

これから行う講座

自分の体、大切にしていますか？

「女性の排泄トラブルを考える」

◆11月28日(月) 14:00～16:00 ※託児あり

講師：西村 かおるさん

(NPO法人日本コンチネンス協会会長)

—大人の女性の4人に1人が尿もれを経験しているとか？
きっかけは、妊娠・出産だったり、加齢によるものだったり…。
自分を大切に健康で快適に過ごす参考にしてみませんか？

子どもも被害にさらされる…

「家族にひそむDVの芽」

◆12月1日(木) 13:30～15:30 ※託児あり

講師：瀧田 信之さん

(湘南DVサポートセンター代表)

—ドメスティック・バイオレンス（略してDV）とは、夫や恋人、交際相手など親密な関係にある相手から、暴力を受けることを言います。とくにDV家族の中で暮らす子どもに及ぼす影響は？講師と一緒に学んでみませんか。



市の男女共同参画

「今までの取り組みとこれから」

◆12月3日(土) 13:30～15:30 ※託児あり

お話：杉森 長子さん

(元・日本女子大学教授)

—武蔵野市における男女共同参画推進のパイオニア、杉森長子さんをお迎えし、今までの取り組みとこれからの展望します。今後私たちには何が求められているのか、皆さんと一緒に考えたいと思います。

アサーティブ・トレーニング

「そして私の生き方」

講師：坂本 照子さん(ウィメンズ・サポートオフィス連理事長)

下村美恵子(むさしのヒューマン・ネットワークセンター長)

◆2012年1月16日～2月13日(毎週月曜日・全5回)
10:00～12:00 ※託児あり

—自分と相手の気持ちを大切にし、
適切に自己表現して、よりよい女性の生き方を探っていきます。

「女性のための再就職準備セミナー」

講師：佐藤 道子さん

(社会保険労務士)

◆2012年2月9日 / 16日 / 23日(毎週木曜日・全3回)
10:00～12:00 ※託児あり

—再就職したい、経済力を持ちたい、自分らしく働きたい…
そんな女性のための第一歩を進める「準備」について学びます。

DVパネル展示 心に響かせる DV根絶パネル



12月5日(月)～12月10日(土)
(水曜日を除く)

場所
武蔵野プレイス 1Fギャラリー

図書紹介

むさしのヒューマン・ネットワークセンター所蔵図書の蔵書一覧が、ホームページ上でいつでも閲覧できます。お探しの本、以前から読みたかった本・・・見つかるかもしれません。どうぞ、ご利用ください。



『働く女性とマタニティ・ハラスメント』
—「労働する身体」と「産む身体」を生きる—

杉浦 浩美 著
大月書店 2009

近年、働く女性を取り巻く環境は厳しく、非正規雇用化の流れは加速する一方です。1990年代以降は、少子化を背景に子育て支援や両立支援の拡充が叫ばれ、育児休業法等の法制度の整備がすすめられてきたものの、「育休切り」や「妊娠解雇」といった不当な現実があります。働きながら子を産み育てたい、というごく当たり前の女性の願いはいまだかなえられていません。法や制度はあっても利用しにくい状況にあることを実例を挙げて解き明かし、妊娠中の人々の安全な環境は、普通の人にとっても安全な環境であると提言しています。

『産む産まないは女の権利か』
—フェミニズムとリベラリズム—

山根 純佳 著
勁草書房 2004



私たちは、権利の侵害にもっと敏感でありたいと願っていますが、その「権利」は実は男性の人生観だけでできていた概念だということに、疑義をつきつけています。フェミニズムがその枠組を越える可能性を持つこと、本当に「産む産まないは女の権利」となっているか、中絶の自由をめぐる批判や問題をどう語っていけばいいのか、さまざまな問いがあることを教えてくれます。著者の修士論文を時間をかけて書き直し、考察したという意味でも、貴重な本です。



女性の悩みごと相談

(※いずれも無料)

- 女性総合相談・・・50分間まで面談・予約制
第2木曜日(10:00～、11:00～)
第4火曜日(13:30～、14:30～)
★場所・問い合わせ
市民協働推進課市民相談係(市役所西棟7階)
☎60-1829
☎60-1921(予約専用)

- 母子(ひとり親)・女性相談
毎週月～金(9:00～17:00)
(祝日・年末年始を除く)
★場所・問い合わせ
子ども家庭支援センター
☎60-1850

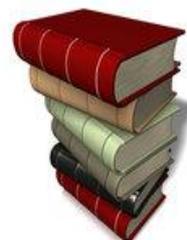


(イラスト) きたもりちか

・・・ひとりで悩まずに、まずはご相談を。

図書貸出案内

- ・ 図書
3点まで
14日以内
- ・ ビデオ
2点まで
7日以内
- ・ DVD
センター内設置のプレイヤー
または専用PCでのみ再生、
視聴できます。
※貸し出しはしません。



● センター利用案内 ●

開館時間：月・火・木・土曜日 9:30～17:00
水・金曜日 9:30～21:00
会議室利用時間
《午前》10:00～13:00
《午後》13:30～16:30
《夜間》17:00～20:30(水・金のみ)
※予約制(2か月前より可) / 利用料無料

● 発行 ●

むさしのヒューマン・ネットワークセンター
武蔵野市境 2-10-27 武蔵野市政センター2階
電話/FAX：0422-37-3410
E-mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp
ホームページアドレス <http://www.mhnc.jp/>